

# 市川図書館だより No.116

ICHIKAWA LIBRARY

2026.1.10

発行：市川市中央図書館 編集：広報委員会 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

## 特集：作家の血縁関係 〈1.市川の文豪編〉

文章を創作する才能＝文才は生まれつきなのか、努力や環境によって文学的才能を伸ばせるのだろうか？そんな疑問から、作家たちの親子関係、夫婦で物書き等、家族関係を探ってみました。

こうだろはん  
**幸田露伴**



慶應3(1867)年～昭和22(1947)年。

江戸文学や漢籍への造詣が深く、日本近代文学を代表する作家。

代表作は、『五重塔』『運命』『風流仏』等。

東京文京区小石川の蝸牛庵を東京大空襲によって失い、信州や伊東に疎開した後、下総中山近辺に住んでいた門下生の土橋利彦(塩谷賛)の世話で、娘の文、孫の玉とともに、1946(昭和21)年1月28日に移り住みます。

翌年、1947(昭和22)年3月には、大正末から手掛けてきた『芭蕉七部集評釈』をようやく完成させ、同年7月30日、80歳の生涯を閉じました。

こうだあや  
**幸田文**  
(露伴の次女)

明治37(1904)年～平成2(1990)年。

父露伴の死後、回想文で文壇に登場。隨筆家として大成。『菅野の記』では、死期の迫った父・露伴を看護する必死の姿が、描かれています。

あおきたま  
**青木玉**  
(露伴の孫)

昭和4(1929)年～。

自伝的隨筆『小石川の家』では、市川菅野の家の出来事や付近の様子を通して祖父への思いが綴られています。

“市川の白幡神社の裏の小川を渡ると雑木の生えた荒地があり、胡瓜や茄子とうもろこしが植えられた畠に沿って、小さな同じ形の家が二列に並んでいた。”

“空襲は容赦なくこの家(蝸牛庵)を焼き、私達は長野、伊豆、市川と二年四ヶ月を流浪し祖父を見送った。…”『手持ちの時間』p144

あおきなお  
**青木奈緒**  
(露伴のひ孫)

昭和38(1963)年～。エッセイスト、作家。翻訳も手がけます。

代表作は、『風はこぶ』『幸田家のきもの』等

幸田家…四代にわたる文筆家の家系は、市川の地で育まれたのかもしれません。

ながいかふう  
**永井荷風**

明治12(1879)年～昭和34(1959)年。

東京文京区生まれ。耽美主義の反自然主義文学の中心的作家で、フランス文学者。1946(昭和21)年1月より市川市に移り住み、1959(昭和34)年4月30日に亡くなるまで、約13年間に渡り、市川に暮らしました。

たかみ じゅん  
**高見 順**  
(荷風の従兄弟)

明治40(1907)年～昭和40(1965)年。

無頼派の一人。代表作『故旧忘れ得べき』(1936)は、饒舌体と呼ばれる手法で書かれ第一回芥川賞候補作になります。

高見順の父である阪本鉄之助と永井荷風の父(永井久一郎)は兄弟です。

荷風の『断腸亭日乗』と並ぶのが『高見順日記』。昭和20年分をまとめた『敗戦日記』は、昭和史を知る貴重な資料です。荷風と高見順の従兄弟、どちらも記録文学の最高峰を極めたと言えるでしょう。

## 〈2.夫婦で作家編〉

…魅かれあい、切磋琢磨で新たな作品が生まれる？

- お互いに恋愛小説の大家になり、同じような文学賞を後追い受賞！

こいけまりこ  
小池真理子

1952(昭和27)年生まれ

1985年、エッセイストから小説家へ

1995年『恋』第114回直木賞

1998年『欲望』第5回島清恋愛文学賞

2013年『沈黙のひと』第47回吉川英治文学賞

受賞歴等

1984

ふじたよしなが  
藤田宜永

1950(昭和25)-2020(平成8)

1986年、小説家デビュー

1994年『鋼鉄の騎士』日本推理作家協会賞

1999年『求愛』第6回島清恋愛文学賞

2001年『愛の領分』第125回直木賞

2017年『大雪物語』第51回吉川英治文学賞

### 『島清恋愛文学賞』って何だろう？

石川県美川町(現・白山市)が町村合併40周年を記念して、同町出身の大正時代のベストセラー作家、島田清次郎(明治32~昭和5年)にちなみ1994(平成6)年に創設。恋愛小説に限定した文学賞として注目を集め、直木賞作家で恋愛小説の大家・渡辺淳一氏が平成25年度まで選考委員長を務めました。現在、文学賞は金沢学院大学が主催しています。

- 京都大学推理小説研究会の同期。互いにホラー要素の相乗効果的が見られる作品を創出。

おのふゆみ  
小野不由美

1960(昭和35)年生まれ

1988年『バースデイ・イブは眠れない』で小説家デビュー

1998年『屍鬼』がベストセラーになる。

2012年『残穢』第26回山本周五郎賞  
「十二国記」シリーズで吉川英治文庫賞受賞

1986

あやつじゅきと  
綾辻行人

1960(昭和35)年生まれ

1986年『十角館の殺人』で小説家デビュー

1992年『時計館の殺人』日本推理作家協会賞長編部門

2018年、推理小説の発展に貢献のあった作家として、第22回日本ミステリー文学大賞受賞。

- 同じ頃に推理小説でデビュー。

かのうともこ  
加納朋子

1966(昭和41)年生まれ

1992年『ななつのこ』で小説家デビュー

1995年「ガラスの麒麟」で日本推理作家協会賞(短編および連作短編集部門)受賞

駒子シリーズ等、連作短編集の妙手

?

ぬくいとくろう  
貫井徳郎

1968(昭和43)年生まれ

1993年『慟哭』で小説家デビュー

2010年『後悔と真実の色』で山本周五郎賞、『乱反射』で日本推理作家協会賞(長編および連作短編集部門)を受賞

2023~日本推理作家協会代表理事

- 漫画と歌人・文筆家の夫婦は仏教研究にも勤しみ、そして天才画家「岡本太郎」が生まれます！

おかもとこ  
岡本かの子

1889(明治22)-1939(昭和14)

与謝野晶子に師事し、「明星」や「スバル」に短歌を発表。

小説家の活動は、1937~晩年の二年間のみで『母子叙情』『金魚掠乱』『老妓抄』『生々流転』等の作品を残します。

1910

おかもといっぺい  
岡本一平

1886(明治19)-1948(昭和23)

1912年、正宗白鳥の連載小説の挿絵代筆を務め、朝日新聞社に入社。新聞や雑誌で漫画に解説文を添えた「漫画漫文」を確立

1929年、『一平全集』全15巻を刊行

↓書庫にある『岡本太郎著作集』『岡本一平全集』



- カトリックの夫婦作家

そのあやこ  
曾野綾子

1931-2025

1953

みうらしゆもん  
三浦朱門

1926-2017

↑『氷点』でデビューした三浦綾子とは、別の方です。

### 〈3.兄弟姉妹で作家編〉

●兄妹で芥川賞受賞！ 1997年上半期 NHK の朝ドラに取り上げられた家系です。

よしゆきじゅんのすけ <b>吉行淳之介</b> (1924-1994)	兄	1954年『驟雨』で第31回芥川賞受賞 1970年『暗室』で谷崎賞受賞 多数文学賞受賞歴のある「第三の新人」のひとり
よしゆきりえ <b>吉行理恵</b> (1939-2006)	妹	1968年『夢の中で』で田村俊子賞受賞 1981年『小さな貴婦人』で第85回芥川賞受賞
? クイズ① (1906-1940)	父	明治39年生まれのダダイスト※詩人。 妻は美容師吉行あぐり。 ※第一次世界大戦から戦後にかけて、欧米に展開された芸術及び文学上の運動

※クイズ①～④の答えは最後のページ下にあります。

●80年代に活躍した兄弟作家。弟は、「ハードロマン」の作家

にしむらぼう <b>西村望</b> (1926-2022)	兄	1978年『鬼畜』で52歳の遅咲きデビュー
? クイズ② (1930-2007)	弟	1969年にデビュー。動物小説、社会派ミステリ、バイオレンス小説等、幅広い作風を手がけてベストセラー作家に。 代表作は、『君よ憤怒の河を涉れ』『滅びの笛』『黄金の犬』『赤い鮫』など

●他の職業からの転向し兄妹で作家に

はらだむねのり <b>原田宗典</b> (1959-)	兄	コピーライターからエッセイストに 代表作は、『スメル男』『スバラ式世界』『吾輩ハ苦手デアル』など
? クイズ③ (1962-)	妹	キュレーター※から作家に 代表作は、『楽園のカンヴァス』『ジヴェルニーの食卓』『リーチ先生』など。 2024年『板上に咲く』では、棟方志功の青年期を描き、泉鏡花文学賞を受賞 ※美術館・博物館等の施設で、展覧会の企画運営を専門に行う職業

●小説家・佐藤紅緑の異母兄妹

サトウハチロー (1903-1973)	兄	詩人、作詞家、作家。 「ちいさい秋みつけた」の作詞で第4回日本レコード大賞童謡賞を受賞 歌謡曲やCMソング、校歌など多数作詞。 「ジロリタン」シリーズなどの児童文学作品も手がけました。
さとうあいこ <b>佐藤愛子</b> (1923-)	妹	母は女優の三笠万里子 1969年『戦いすんで日が暮れて』で第61回直木賞受賞 1979年『幸福の絵』で女流文学賞を受賞 1987年『こんなふうに死にたい』で日本文芸大賞 2000年、佐藤家を書いた自伝的大作『血脉』で菊池寛賞を受賞

●親子で直木賞受賞！さらに子供は双子の兄弟で作家に

しらいしいちろう <b>白石一郎</b> (1931-2004)	父	1987年『海狼伝』で第97回直木賞受賞 1992年『戦鬼たちの海』で柴田錬三郎賞受賞 1999年『怒濤のごとく』で吉川英治文学賞受賞 双子の息子、白石一文・白石文郎とも作家として活動
しらいしかづみ <b>白石一文</b> (1958- 双子)	子(兄)	1992年にデビュー、2000年に白石名義での『一瞬の光』で再デビュー 2009年『ほかならぬ人へ』で第142回直木賞受賞
ふみお <b>白石文郎</b>	子(弟)	1995年『寵児』で作家デビュー、他に『風街』など

## 〈4.親子で作家編〉

### ●母娘で時代小説作家

さわだ <b>澤田ふじ子</b> (1946-)	母	1973年、作家デビュー。 1982年『陸奥甲冑記』『寂野』で吉川英治文学新人賞
さわだとうこ <b>澤田瞳子</b> (1977-)	娘	2010年『孤鷹の天』で小説家デビュー。 2015年『若冲』で新たな持論を展開し、ベストセラーになる 2021年『星落ちて、なお』で直木賞受賞

### ●異母姉妹で作家。父は、文学史上でも有名な方です。

？ クイズ④ (明治 42-1948)	父	昭和 8 年「思ひ出」「魚服記」でデビュー。 昭和 22 年『斜陽』『人間失格』『ヴィヨンの妻』等の長編小説を発表 昭和 23 年 6 月遺稿となる『グッド・バイ』発表後、玉川上水で入水自殺。
つしまゆうこ <b>津島祐子</b> (1947-2016)	娘	1977年『草の臥所』で泉鏡花文学賞受賞 1998年『火の山 山猿記』で谷崎潤一郎賞、野間文芸賞を受賞 そのほか代表作は『寵兒』『葦の母』『光の領分』『風よ、空駆ける風よ』など多くの文藝賞を受賞。
おおたはるこ <b>太田治子</b> (1947-)	娘	1985年、母・静子の思い出を綴った『心映えの記』で坪田譲治文学賞を受賞 多くの美術書やエッセイ、童話等を手がける。

『』の作品名は初出で紹介しているため、単行本で所蔵していない作品があります。お読みになりたい場合はカウンターでご相談ください。

### 図書館からのお知らせ



**NAXOS MUSIC LIBRARY**  
ナクソス・ミュージック・ライブラリー



クラシックを中心に 200 万曲以上が揃っているインターネット上の音楽配信サービス  
2025 年 7 月～利用できるようになりました。  
貸出用の ID とパスワード(PW)を申請すれば、自宅のパソコンで楽曲を聴いて楽しむことができます。

→ID/PW の申込は、CD を所蔵する図書館(中央・行徳)および市川駅南口の図書館窓口 まで

#### ご注意:

- インターネットに接続されたパソコンと、Web ブラウザが必要です。スマホには対応していません。
- パソコンにダウンロードして保存したり、CD 等に録音したりすることはできません。
- 試聴期間は初回にログインしてから二週間となります。
- 対象は、市川市在住在勤在学の方となります。



『月刊クラシック通信』(PDF 形式)は、ナクソス・ミュージック・ライブラリーが毎月発行しています。とておきの CD8 枚が毎月紹介されています。  
バックナンバーは、直接ウェブサイト  
<https://ml.naxos.jp/Pages/MonthlyNML.aspx#BN>  
にアクセスしてご覧ください。



？クイズの答え ①吉行エイスケ ②西村寿行 ③原田マハ ④太宰治

発行:市川市中央図書館